

# 「関歴研参加記」

—考古学調査の裏側を知る—

中央大学附属横浜中学校・高等学校 柴 泰登

## 令和6年度 関東歴史教育研究協議会栃木大会

2024年12月7日(土)、しもつけ風土記の丘資料館にて開催されました。今回は午前授業実践報告を3本、午後に講演と史跡踏査が行われました。

まず、午前に行われた研究発表は以下の通りです。

岡慎太郎先生(栃木県立宇都宮女子高等学校)

「探究的な学習の充実を目指した歴史総合の授業展開」

高橋亜由美先生(栃木県立宇都宮東高等学校)

「ICTを活用した世界史授業における協働学習の

可能性と課題」

荒川知佳先生(栃木県立足利清風高等学校)

「主体的に学習に取り組む態度を高める授業実践

—歴史総合における個別最適な学び—」

個人的な感想としては、荒川先生の個別学習を本格的に取り入れた授業実践報告が興味深いものでした。昨今地方の学校では、少子化もあって学力差の大きい生徒たちを同じクラスで教えなければならないという問題に直面していますが、今回の発表はそれに対する具体的な対応策を示すものであったと思います。「授業は一斉学習で行うもの」と思い込んでしまっている自分にとって、目から鱗が落ちる思いでした。

午後に入ると、まず山口耕一先生(下野市立しもつけ風土記の丘資料館館長)によるご講演「地域を知る手がかりとしての文化財」が行われました。今回の会場となったしもつけ風土記の丘資料館周辺は古代において下野国の国府や国分寺が置かれていた場所なのですが、自然災害が少ないという防災的な観点からこの地が選ばれたことなど、久々に聞かされた緻密な史料考証に基づいた発表は、非常に聴き応えのあるものでした。

講演後は、「しもつけ風土記の丘資料館」と「栃木県埋蔵文化財センター」の2か所を見学させていただきました。特に後者では、私が門外漢である考古学調査の実態について、現物を見せていただきながら詳細な解説をいただいたことで、少しではありますが考古学に関する知見を増やすことが出来たように思います。

このように充実した内容だった関歴研ですが、本大会の運営・発表に関わった栃木県の先生方、本当にお疲れ様でした。次回は茨城県での開催とのこと、新たな知見を得られることを楽しみにして訪問させていただきたいと思います。

